

特定非営利活動法人日本火山学会 2021年度第2回理事会 議事録

2021年5月18日 13時03分～16時30分

Zoomによる遠隔会議

出席者：青山 裕，石峯康浩，市原美恵，上田英樹，大野希一，奥村 聡，下司信夫，高木朗充，東宮昭彦，中道治久，西村太志，宮縁育夫，

欠席者： 青木陽介，千葉達朗，

議題

議題1 2020年度決算案

2020年度決算案（別添資料1）について，財務委員会の説明に基づき審議し，委員会作成の決算案を総会に提案することを承認した。

2020年度決算についての財務委員会からの説明は以下の通り。

経常収入は前年比約-106万円の約1191万円。会費収入はほぼ予算通りであった。秋季大会がオンライン開催となったため大会参加費・予稿集販売金の収入が減少した。予算より大幅に増加した書籍等販売金は主にオリジナルノート売り上げによる。「火山」掲載内容に関する著作権料の収入が例年より多かった。

経常支出は，コロナ感染拡大のため事業が縮小・中止となったものが多いため事業支出の予算に対する実際の支出減少が目立った。特に，現地開催の中止による定期大会開催費関連の減少，各種出張等の旅費の減少が大きい。ACVの開催も中止となったためこれに関連する支出がなかった。事務局運営経費等の管理費はほぼ予算通りの支出となった。これらの結果，経常収入と支出の差額は約33万円の黒字となった。

今後，イベントなどのオンライン化がコロナ後も継続すると思われるので，事業内容について新しい状況に対応した事業内容・予算内容を検討する必要がある。

「他団体援助金支出」は，外部からの補助金収入と区別するため本年度から項目名称を変えたものである。内容は昨年と同じで，EPS，地学オリンピック，サマーキャンプへの支出が含まれる。

また，2020年度決算に対する監査報告が併せて報告された。

議題2 2021年度予算案

2021年度予算案（別添資料2）について財務委員会の説明に基づき審議し，委員会作成の予算案を総会に提案することを承認した。

2021年度予算に関する財務委員会からの説明は以下の通り。

2021年度予算として各委員会から計上された予算を積算した。経常収入について、会費収入は4月当初の会員数から算出したものである。予算総額は前年度とほぼ同額となった。経常支出額もほぼ前年度と同水準である。例年同様、見かけ上は大幅な赤字予算であるものの実際の赤字はこれより大幅に少ない数十万円以内に収まると想定している。これは各予算項目に十分な余裕を見ているため。なお、定期大会開催費についてはオンライン開催に対応し開催業務の外部委託費を計上するなど、昨年度予算に対して内容および額についての変更がある。開催が未定の現地討論会参加費も予算には計上している。大会経費の増加に伴い大会参加費の増額も検討すべきと思われる。コロナ感染症対策で事業等の変更や中止の場合には早期に学会内で情報共有したい。

議題3 2021年度各賞受賞候補者の選考結果

各賞選考委員会から2021年度日本火山学会各賞の受賞候補者選考結果(別添資料3)および審査経緯の説明が行われ、理事会で議論した結果、各賞選考委員会提案の通りに選考結果を承認した。

各賞選考委員会から応募状況及び審査経緯の詳細について説明を行った。各賞に対する応募数はそれほど多くなく例年並みであった。各賞の選定手順について説明した。会員から候補者を公募する賞(5つ)の選考過程は、1次、2次審査を経て委員会内で審議し受賞候補者を選定した。論文賞については、1次審査で各賞選考委員がそれぞれ対象雑誌から候補論文を選出し、選出された候補論文に対して全委員で2次審査を実施、その結果に基づき委員会内で審議を行い、受賞候補論文を選定した。

議題4 日本火山学会表彰規程および内規の修正

日本火山学会表彰規程および内規の修正について、修正案及び修正内容についての説明が各賞選考委員会から行われた。「受賞」と「授賞」の使い分けについて検討の必要が指摘され、修正案を指摘に従い再修正した変更案(添付資料4)を理事会で承認した。修正した規程は総会にて報告する。また、併せて各賞選考委員会の内規の修正について、その内容を理事会に報告した。

議題5

各賞選考委員の変更について

宇平幸一委員が退任し、残りの任期について山里会員を後任の委員とする変更が提案され、理事会で承認した。委員変更については総会にて報告する。

議題6 定款および理事会運営細則の修正

インターネット上での会議システムなどの遠隔会議を活用して理事会を柔軟に開催可能と

するため、遠隔会議による理事会開催を定款に定義するとともに、メール会議同様にその招集期限を会議前日とするための定款の該当部分および理事会運営細則修正案（別添資料 5）が庶務委員会から提案され、理事会で承認した。本件は秋に予定している臨時総会に提案する。

議題 7 本会会員名簿作成方針の変更について

会員の利便性向上および名簿作成・配布コスト削減のため、本会会員名簿の印刷物の作成を廃止し PDF ファイルを学会ホームページ上にパスワード保護の上掲載する方針が庶務委員会から提案された。理事会で議論した結果、個人情報の管理上ホームページへの掲載を取りやめることとし、それ以外の名簿作成方針の変更について理事会で承認した。

議題 8 プライバシーポリシー策定および個人情報の管理体制について

個人情報保護法に基づく本会の個人情報の管理体制について整備する方針が理事会で承認された。

会員の個人情報管理に関する案件なので、プライバシーポリシーおよび関連規約については総会承認を経て制定することとした。

議題 9 2021 年度秋期大会開催方針について

秋季大会開催日程等についての方針、業者の導入及びそれに基づく参加費の変更について大会委員から開催方針が提案され、理事会で承認した。

経費については見積もり業者により額が異なるので、内容を精査して今後決定すること、一般公開セミナーについては LOC ではオンライン化の方向で検討中であること、子供向けの行事については開催方針を検討中であることが併せて報告された。

議題 10 日本ジオパーク学術支援連合への日本火山学会の参加について

日本ジオパーク学術支援連合への日本火山学会の参加について、ジオパーク支援委員会から提案があり、理事会として承認した。

ジオパーク支援委員会からの経緯説明は以下の通り。

日本ジオパーク学術支援連合はジオパーク活動の学術的品質を保証する目的で設置される。ジオパーク申請書等の学術的記述のレビューなどが役割。日本ジオパーク委員会とは独立した組織として、日本ジオパーク委員会からの要請に基づきレビューを行う役割を果たす。世界ジオパークへの申請を行う場合に、国際的価値を評価するために火山学会としての協力をを行う。学会としてのメリットは、学術研究成果を社会に普及啓発する機会となる。学会員への依頼はボランティアとして行うならば、どの程度の仕事量になるか明らかにしておいたほうが良いだろうという意見があった。

報告事項

庶務委員会関連

昨年度から今年度にかけての会員動向について報告した。会員数はほぼ横ばいから若干の減少である。大学院生の会員数が減少気味にみえるので、参加を促したい。
また 2020 年度に本会が行った協賛・後援等について報告した。

編集委員会

「火山」出版状況を報告した。第 66 巻 2 号は 6 月に出版予定。特集号「噴火史研究と火山観測を統合した新たな火山像の確立」は単独特集号として発行予定。3 号以降に通常号と併せて掲載する。編集状況としては 15 編投稿がある。近年に比べて投稿が活発である。特集号効果と考えられる。現在 13 編査読中。

解説・紹介に火山コンソで行っている講座の内容を掲載する予定。火山の特集として掲載してゆく方針。10 数件を執筆依頼している。

国際委員会

IAVCEI 小委員会活動について報告した。

アジア火山コンソーシアムの開催について、2020 年度はコロナのため開催しなかった。CoV 11 は 2022 年、IAVCEI 総会は 2023 年に延期。IAVCEI ではウェビナーを開催、Etna, Iceland の噴火事例について研究紹介が行われた。

火山防災委員会

火山防災に関連する以下の活動について報告した。

防災学術連携体の一般社団法人化、4 月に完了した。

火山防災シンポジウムの開催は、Zoom を用いて 6 月 5 日夕に開催予定。大手町の電中研会議室から配信予定である。通信費等を 2 万円予算として計上している。

地域安全学会との連携推進。地域安全学会では火山災害対応研究小委員会の立ち上げを検討中のため、火山学会と連携して推進する。

オンラインでの勉強会等の開催のため、Zoom のアカウントを契約する。遠隔地からの参加が可能となる。また、「雲仙災害 30 周年」のイベントに Zoom 会議で参加予定。

Zoom の契約は学会としてメリットがあるので、アカウントを学会で取得することを検討する。

事業委員会

事業内容について報告した。

オリジナルノート初版はほぼ完売し、増刷 2000 部はこれから販売を継続する。

新事業として火山 YouTube 番組作成を計画している。技術者継続教育、CPD 取得プログ

ラム等についても継続して検討する。シンポジウム等の開催についても今後関係委員会等と連携を模索する。

学校教育委員会

サマースクールは現地開催で準備しているが、現状では今年度も実施できない可能性が高い。来年度はオンラインでも開催可能な準備を検討している。地学オリンピックについても今年度の方針は未定。

広報委員会

Twitter, Facebook による情報発信の準備を行った。提供する情報について広く提供してほしい。パンフレット「安全に火山を楽しむために」のバージョンアップを行う。HP での中学生～大学生向けに、火山を学べる大学等の情報を載せるとよいのでは、という提案あり。まとめ方等に検討を要するので議論中である。

以上

以上、この議事録が正確であることを証します。

2021 年 5 月 24 日

議長 西村太志

議事録署名人 高木朗充 東宮昭彦

2020年度決算(案)

勘定科目名称	2020予算	2020実績	実績差異	備考
《経常増減の部》				
【経常収入】				
【会費収入】				
維持会員会費	2,750,000	2,815,000	65,000	
学会会員会費	4,656,000	4,884,000	228,000	
一般会員会費	913,000	930,000	17,000	
【会費収入】合計	8,319,000	8,629,000	310,000	
【寄付金収入】				
【寄付金収入】合計	0	0	0	
【補助金等収入】				
文部科学省助成金収入	700,000	538,834	-161,166	
【補助金等収入】合計	700,000	538,834	-161,166	
【事業収入】				
火山定期購読料	800,000	781,000	-19,000	
火山別刷販売金	150,000	256,489	106,489	
予稿集販売金	250,000	148,940	-101,060	現地開催取りやめ(オンライン開催)のため。
書籍等販売金	75,000	339,971	264,971	学会オリジナルノート販売
大会参加費等	4,130,000	960,000	-3,170,000	現地開催取りやめ、討論会・交流会中止のため。
【事業収入】合計	5,405,000	2,486,400	-2,918,600	
【その他収入】				
受取利息	300	285	-15	
雑収入	50,000	256,329	206,329	著作権料など
【その他収入】合計	50,300	256,614	206,314	
【経常収入】合計	14,474,300	11,910,848	2,563,452	
【経常支出】				
【事業費】				新型コロナウイルス感染拡大による影響大
火山学に関する定期大会等の開催費				
予稿集印刷費	350,000	131,230	-218,770	現地開催取りやめ(オンライン開催)のため。
予稿集発送費	20,000	19,850	-150	
臨時雇賃金	300,000	25,440	-274,560	現地開催取りやめ(オンライン開催)のため。
会場使用料・委託費	650,000	0	-650,000	現地開催取りやめ(オンライン開催)のため。
旅費謝金	360,000	14,760	-345,240	現地開催取りやめ(オンライン開催)のため。
通信運搬費	70,000	58,723	-11,277	
機材借料	100,000	0	-100,000	現地開催取りやめ(オンライン開催)のため。
現地討論会・交流会費	2,800,000	0	-2,800,000	現地討論会・交流会は中止。
雑費	1,190,000	105,494	-1,084,506	現地開催取りやめ(オンライン開催)のため。
火山学に関する定期大会等の開催費 合計	5,840,000	355,497	-5,484,503	
会誌機関紙研究報告書等発行費				
火山印刷費	3,760,000	1,804,445	-1,955,555	
火山発送費	500,000	335,378	-164,622	
別刷印刷費	350,000	59,070	-290,930	
別刷発送費	40,000	7,140	-32,860	
通信運搬費	50,000	3,004	-46,996	
火山雑費	460,000	165,605	-294,395	
会誌機関紙研究報告書等発行費 合計	5,160,000	2,374,642	-2,785,358	
公開講座講演会等開催費				
臨時雇賃金	50,000	8,480	-41,520	
旅費謝金	300,000	17,814	-282,186	現地開催取りやめ(オンライン開催)のため。
通信運搬費	50,000	49,194	-806	
印刷費	200,000	176,850	-23,150	
雑費	300,000	287,896	-12,104	
公開講座講演会等開催費 合計	900,000	540,234	-359,766	
火山学の普及啓発に関する事業費				
臨時雇賃金	8,000	0	-8,000	各種事業中止のため。
旅費謝金	1,090,000	0	-1,090,000	各種事業中止のため。
通信運搬費	20,000	19,839	-161	
印刷費	330,000	160,600	-169,400	
雑費	313,000	126,475	-186,525	
火山学の普及啓発に関する事業費 合計	1,761,000	306,914	-1,454,086	
火山学に関する研究奨励表彰費				
その他印刷費	50,000	24,920	-25,080	
奨励費	400,000	0	-400,000	国際奨励賞なし
雑費	50,000	18,268	-31,732	
火山学に関する研究奨励表彰費 合計	500,000	43,188	-456,812	

2020年度決算(案)

ver.210430b

勘定科目名称	2020予算	2020実績	実績差異	備考
他団体援助金支出				
他団体援助金支出	800,000	600,000	-200,000	EPS, 地学五輪, サマスク, 例年通り支出.
他団体援助金支出 合計	800,000	600,000	-200,000	
【期首・期末棚卸】				
売上原価	0	321,105	321,105	期首・期末棚卸高の差, 在庫整理
【期首・期末棚卸】 合計	0	321,105	321,105	
事業費 計	14,961,000	4,541,580	-10,419,420	
【管理費】				
給料手当	3,900,000	3,724,977	-175,023	
法定福利費	640,000	629,030	-10,970	
福利厚生費	10,000	7,160	-2,840	
旅費交通費	810,000	208,800	-601,200	理事会オンライン化等
通信運搬費	470,000	313,828	-156,172	
消耗品費	180,000	85,866	-94,134	
光熱水料費	120,000	90,363	-29,637	
賃借料	340,000	323,196	-16,804	
租税公課	150,000	135,730	-14,270	
支払手数料	800,000	778,152	-21,848	会計事務所
減価償却費	169,553	169,553	0	
徴収不能額	0	324,000	324,000	滞納除名者
保険料	5,678	5,678	0	火災保険料1年分
雑費	860,000	239,671	-620,329	HP改修ほか.
管理費 計	8,455,231	7,036,004	-1,419,227	
【経常支出】 合計	23,416,231	11,577,584	-11,838,647	
当期経常増減額	-8,941,931	333,264	9,275,195	
《その他資金の部》				
【その他資金収入の部】				
【その他資金収入の部】 合計	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
【その他資金支出の部】 合計	0	0	0	
《正味財産増減の部》				
当期正味財産増減額	-8,941,931	333,264	9,275,195	
前期繰越正味財産額	32,792,232	32,792,232	0	
次期繰越正味財産額	23,850,301	33,125,496	9,275,195	年度末における正味財産(純資産)
固定資産額		21,463,788		
期末棚卸高		1,042,973		
前払費用		14,195		
前期繰越収支差額		9,924,940		
次期繰越収支差額		10,604,540	679,600	内ACV(IAVCEI寄付)残金31万

2021年度予算(案)

(秋季大会完全オンライン化に伴い、関係予算修正の可能性あり)

勘定科目名称	2020実績	2021予算	予算額差異	備考
《経常増減の部》				
【経常収入】				
【会費収入】				
維持会員会費	2,815,000	2,735,000	-80,000	2021/4/8時点での会員数
学会会員会費	4,884,000	4,640,000	-244,000	2021/4/8時点での会員数
一般会員会費	930,000	925,000	-5,000	2021/4/8時点での会員数
【会費収入】合計	8,629,000	8,300,000	-329,000	
【寄付金収入】				
【寄付金収入】合計	0	0	0	
【補助金等収入】				
文部科学省助成金収入	538,834	700,000	161,166	
【補助金等収入】合計	538,834	700,000	161,166	
【事業収入】				
火山定期購読料	781,000	700,000	-81,000	PDF無料化で減少傾向
火山別刷販売金	256,489	200,000	-56,489	例年実績
予稿集販売金	148,940	200,000	51,060	印刷費支出と同額
書籍等販売金	339,971	300,000	-39,971	去年度実績(ノート販売含む)
大会参加費等	960,000	1,360,000	400,000	去年度実績+現地討論会40+交流会0
【事業収入】合計	2,486,400	2,760,000	273,600	
【その他収入】				
受取 利息	285	300	15	
雑 収入	256,329	200,000	-56,329	著作権料など、例年実績
【その他収入】合計	256,614	200,300	-56,314	
【経常収入】合計	11,910,848	11,960,300	49,452	うち現地討論40+交流0
【経常支出】				
【事業費】				
火山学に関する定期大会等の開催費				
予稿集印刷費	131,230	200,000	68,770	
予稿集発送費	19,850	50,000	30,150	
臨時雇賃金	25,440	300,000	274,560	
会場使用料・委託費	0	1,650,000	1,650,000	JpGUは計上せず、会場15・オンライン委託13Q、余裕20
旅費謝金	14,760	360,000	345,240	
通信運搬費	58,723	300,000	241,277	
機材借料	0	100,000	100,000	
現地討論会・交流会費	0	500,000	500,000	現地討論2万×20人、交流0、余裕10
雑費	105,494	800,000	694,506	消耗品等23、クレジット決済20、庶務7、余裕30
火山学に関する定期大会等の開催費 合計	355,497	4,260,000	3,904,503	うち現地討論40+交流0、余裕60
会誌機関紙研究報告書等発行費				
火山印刷費	1,804,445	3,760,000	1,955,555	火山260(65×4)、カラー負担66、余裕50
火山発送費	335,378	500,000	164,622	
別刷印刷費	59,070	200,000	140,930	
別刷発送費	7,140	30,000	22,860	
通信運搬費	3,004	20,000	16,996	
火山雑費	165,605	450,000	284,395	J-STAGE関係:火山20 予稿集15 余裕10
会誌機関紙研究報告書等発行費 合計	2,374,642	4,960,000	2,585,358	余裕60
公開講座講演会等開催費				
臨時雇賃金	8,480	50,000	41,520	学生アルバイト@8000*5
旅費謝金	17,814	300,000	282,186	
通信運搬費	49,194	100,000	50,806	
印刷費	176,850	250,000	73,150	
雑費	287,896	400,000	112,104	余裕10
公開講座講演会等開催費 合計	540,234	1,100,000	559,766	余裕10
火山学の普及啓発に関する事業費				
臨時雇賃金	0	8,000	8,000	防災0.8
旅費謝金	0	1,160,000	1,160,000	国際30、学校24、防災10、到来20、GP5、事業7、余裕20
通信運搬費	19,839	80,000	60,161	防災2、事業4、余裕2
印刷費	160,600	583,000	422,400	防災(シンポ8、パンフレット25)、事業25.3
雑費	126,475	214,000	87,525	国際1.3、学校2、事業0.1、余裕18
火山学の普及啓発に関する事業費 合計	306,914	2,045,000	1,738,086	余裕40
火山学に関する研究奨励表彰費				
その他印刷費	24,920	50,000	25,080	各賞5(受賞8件)
奨励費	0	400,000	400,000	国際20x2
雑費	18,268	50,000	31,732	各賞5
火山学に関する研究奨励表彰費 合計	43,188	500,000	456,812	
他団体援助金支出				
他団体援助金支出	600,000	800,000	200,000	EPS、地学五輪、サマスク、余裕20
他団体援助金支出 合計	600,000	800,000	200,000	余裕20
【期首・期末棚卸】				
売上原価	321,105	0	-321,105	
【期首・期末棚卸】合計	321,105	0	-321,105	
事業費 計	4,541,580	13,665,000	9,123,420	余裕190(余裕を除いたとしても実際はここまで支出はない予定)

2021年度予算(案)

ver.210430b

(秋季大会完全オンライン化に伴い、関係予算修正の可能性あり)

勘定科目名称	2020実績	2021予算	予算額差異	備考
【管理費】				
給料手当	3,724,977	3,900,000	175,023	余裕17
法定福利費	629,030	650,000	20,970	社保
福利厚生費	7,160	10,000	2,840	健診
旅費交通費	208,800	820,000	611,200	通勤費21, 理事会旅費40, 理事選挙1, 余裕20
通信運搬費	313,828	780,000	466,172	うち、富士山送料10, 総会資料送付9, 名簿11, 理事選挙15, 余裕10
消耗品費	85,866	210,000	124,134	+ 理事選挙3
光熱水料費	90,363	120,000	29,637	
賃借料	323,196	340,000	16,804	マンション管理、コピー機リース、他
租税公課	135,730	150,000	14,270	
支払手数料	778,152	840,000	61,848	会計事務所, 振込手数料
減価償却費	169,553	169,553	0	定額
徴収不能額	324,000	0	-324,000	
保険料	5,678	5,678	0	定額
雑費	239,671	760,000	520,329	HP改修20, 事務局15(うち会費4・総会3), 名簿2, 理事選挙9, 余裕30
管理費 計	7,036,004	8,755,231	1,719,227	余裕77
【経常支出】合計	11,577,584	22,420,231	10,842,647	余裕267
当期経常増減額	333,264	-10,459,931	-10,793,195	(実際はここまで赤字にならない予定)
《その他資金の部》				
【その他資金収入の部】				
【その他資金収入の部】合計	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
【その他資金支出の部】合計	0	0	0	
《正味財産増減の部》				
当期正味財産増減額	333,264	-10,459,931	-10,793,195	
前期繰越正味財産額	32,792,232	33,125,496	333,264	
次期繰越正味財産額	33,125,496	22,665,565	-10,459,931	前期繰越正味財産額+当期正味財産増減額
固定資産額	21,463,788	21,444,235	-19,553	前期額-減価償却+退職引当金支出(15万)
期末棚卸高	1,042,973	1,042,973	0	去年度実績
前払費用	14,195	8,517	-5,678	保険料未経過分
前期繰越収支差額	9,924,940	10,604,540	679,600	
次期繰越収支差額	10,604,540	169,840	-10,434,700	次期繰越正味財産-固定資産-期末棚卸-前払費

2021 年度日本火山学会各賞の授賞候補者選考結果

各賞選考委員会 高木

日本火山学会表彰規等の規約に基づき、2021 年度の日本火山学会各賞の授賞候補者を選考した。その結果を下記に報告し、理事会にはかりたい。

選考期間： 2021 年 3 月 16 日～4 月 30 日

委員； 高木、宇平、及川、小園、角野、橋本、伴、前野

■日本火山学会賞の授賞候補（応募：なし）

■日本火山学普及啓発賞の授賞候補（応募：1 件）

被推薦者： 三松三朗・三松正夫記念館

推薦者所属： 三松正夫記念館

自薦／他薦： 他薦

推薦者： 佐藤 公、池辺伸一郎、中川光弘、長井大輔、山口珠美、下司信夫

授賞対象となる研究課題名あるいは貢献活動名：

有珠山を舞台とした火山防災意識の継承と火山との共生を目指す長期的取り組み

■日本火山学会優秀学術賞の授賞候補（応募：1 件）

授賞適格者なし

■日本火山学会研究奨励賞の授賞候補（応募：1 件）

被推薦者： 無盡真弓

被推薦者所属： 東北大学大学院理学研究科地学専攻

自薦／他薦： 他薦

照会者： 中村美千彦、栗谷 豪

授賞対象となる研究課題名あるいは貢献活動名：

ナノスケール火山岩岩石学の創出とその噴火ダイナミクスへの応用

■日本火山学会学生優秀論文賞の授賞候補（応募：3 件）

・授賞候補 1

被推薦者： 谷内 元
 被推薦者所属： 北海道大学大学院理学院自然史科学専攻
 (2021年4月以降：静岡大学理学部地球科学科)

自薦／他薦： 自薦
 照会者： 中川光弘、青山 裕、栗谷 豪

授賞対象となる研究課題名あるいは貢献活動名：

Hajime Taniuchi, Takeshi Kuritani, Tetsuya Yokoyama, Eizo Nakamura, and Mitsuhiro Nakagawa (2020) A new concept for the genesis of felsic magma: the separation of slab-derived supercritical liquid. *Scientific Reports*, 10, 8698, doi:10.1038/s41598-020-65641-6.

・授賞候補 2

被推薦者： Theodorus Permana
 被推薦者所属： 北海道大学大学院理学研究院地震火山研究観測センター

自薦／他薦： 他薦
 照会者： 中原 恒

授賞対象となる研究課題名あるいは貢献活動名：

Theodorus Permana, Takeshi Nishimura, Hisashi Nakahara, Eisuke Fujita, Hideki Ueda (2020) Reliability evaluation of volcanic tremor source location determination using cross-correlation functions. *Geophys. J. Int.*, 220, 1300-1315, doi:10.1093/gji/ggz523.

■日本火山学会論文賞の授賞候補

・授賞候補 1

著者： Kazutaka Mannen, Yohei Yukutake, George Kikugawa (2018)
 論文名： Chronology of the 2015 eruption of Hakone volcano, Japan: geological background, mechanism of volcanic unrest and disaster mitigation measures during the crisis. *Earth Planet Space*, 70, 1, doi:10.1186/s40623-018-0844-2.

・授賞候補 2

著者： Shohei Narita, Taku Ozawa, Yosuke Aoki, Masanobu Shimada, Masato Furuya, Youichiro Takada, Makoto Murakami (2020)
 論文名： Precursory ground deformation of the 2018 phreatic eruption on Iwo-Yama volcano, revealed by four-dimensional joint analysis of airborne and spaceborne InSAR. *Earth Planet Space*, 72, 1, doi:10.1186/s40623-020-01280-5.

日本火山学会表彰規程の修正（案）、及び同規程の内規の修正報告

各賞選考委員会 高木

○日本火山学会表彰規程の修正（案）

日本火山学会表彰規程を下記のとおり修正したいので、理事会にはかりたい。

特定非営利活動法人日本火山学会表彰規程

（2003年10月12日臨時総会報告，2008年10月12日臨時総会報告，2010年10月10日臨時総会報告，2013年9月30日臨時総会報告，2016年5月24日総会報告，2017年5月22日総会報告，2020年8月28日臨時総会報告，2021年 月 日総会報告）

1. 日本火山学会における各賞の選考はこの規程によるものとする。

2. 表彰の内訳は，日本火山学会賞（Volcanological Society of Japan Award），日本火山学会普及啓発賞（Distinguished Public Awareness Award），日本火山学会優秀学術賞（Distinguished Academic Award），日本火山学会論文賞（Best Paper Award），日本火山学会研究奨励賞（Young Scientist Award），日本火山学会学生優秀論文賞（Best Student Paper Award）及び日本火山学会学生優秀発表賞（Best Student Presentation Award）とする。

○日本火山学会賞：日本の火山学の発展に対し長年において特段の貢献のあった個人または団体に授与する。

○日本火山学会普及啓発賞：日本の火山学の普及啓発に対し優れた貢献のあった個人または団体に授与する。

○日本火山学会優秀学術賞：直近数年間に於いて火山学に関する優れた学術貢献のあった本会会員に授与する。

○日本火山学会論文賞：雑誌「火山」あるいは「Earth, Planets and Space」に掲載された論文中，火山学に関する独創的で特に優れた論文の著者に授与する。

○日本火山学会研究奨励賞：火山学に関する優れた論文を発表し，将来，火山学の発展への貢献が期待される35歳以下の本会会員（授賞対象年の4月1日で35歳以下の者）に授与する。

○日本火山学会学生優秀論文賞：火山学に関する独創的で特に優れた論文を投稿時点において学生として筆頭執筆した本会会員に授与する。

○日本火山学会学生優秀発表賞：日本火山学会秋季大会において筆頭講演者として優れた発表を行った学生に対し，口頭発表については日本火山学会学生優秀口頭発表賞を，ポスター発表については日本火山学会学生優秀ポスター発表賞をそれぞれ授与する。

3. 表彰は各賞選考委員会が授賞候補者の選考を行い，選考結果を理事会に報告し，理事会が授賞者を決定する。

4. 日本火山学会賞，日本火山学会普及啓発賞，日本火山学会優秀学術賞，日本火山学会研究奨励賞及び日本火山学会学生優秀論文賞候補者は，自薦あるいは他薦によるものとし各賞選考委員会が公募する。授賞件数はいずれも毎年若干名とする。

5. 日本火山学会論文賞の授賞対象は当該年の前3年間に発表された論文とする。授賞件数は毎年2件以内とする。また，論文筆頭著者として本論文賞を受賞できるのは1回限りとする。

6. 日本火山学会学生優秀論文賞の授賞対象は当該年の前3年間に発表された学生が筆頭著者の論文とする。授賞件数は毎年2件以内とする。また，本論文賞を受賞できるのは1回限りとする。

7. 日本火山学会学生優秀発表賞の授賞件数は毎年数件程度とする。また，口頭発表賞，ポスター発表賞を受賞できるのは，それぞれ1回限りとする。

8. 日本火山学会賞，日本火山学会普及啓発賞，日本火山学会優秀学術賞及び日本火山学会研究奨励賞の授賞者には定期大会での記念講演と「火山」への受賞記念の解説・紹介の投稿の機会が与えられる。

附則

1. この規程の変更は，理事会で承認し，総会に報告される。

○日本火山学会表彰規程の内規の修正報告

日本火山学会表彰規程の内規を下記のとおり修正したので報告する。

日本火山学会論文賞の選考内規（2017年5月理事会報告，2021年5月理事会報告）

1. 日本火山学会表彰規程に定められた授賞対象論文から，2回の投票と審議によって授賞適格論文を選定する。
2. 第一次投票では，委員は授賞対象論文よりそれぞれの雑誌から3編以内を選定し，投票する。
3. 委員長は，第一次投票結果全体を委員に開示する。授賞対象論文の中で2名以上の委員が投票したものを，第二次投票対象論文とする。
4. 第二次投票では，委員は第二次投票対象論文について，以下の基準で4段階の評価の投票を行なう。4. 授賞に十分値する，3. 授賞に値する，2. 授賞にやや不足である，1. 授賞に値しない。
5. 委員長は評価の第二次投票結果を取りまとめ，平均得票が概ね3以上で上位若干名の中から，審議を経て当該年の日本火山学会論文賞の授賞適格論文を選定する。
6. 第一次および第二次の投票において，委員定数の過半数の委員からの投票がなかった場合には締切り後2週間以内に再投票を行なう。なお，再投票が過半数に満たない場合は適格論文なしの認定を行なう。

日本火山学会賞,
日本火山学会普及啓発賞,
日本火山学会優秀学術賞,
日本火山学会研究奨励賞,
日本火山学会学生優秀論文賞の選考内規（2017年5月理事会報告, 2021年5月理事会報告）

1. 自薦または他薦による各賞の授賞の候補者（あるいは候補団体）について、委員長は推薦資料を委員に配布し、委員は各候補者について、以下の基準で4段階の評価の投票を行なう。4. 授賞に十分値する, 3. 授賞に値する, 2. 授賞にやや不足である, 1. 授賞に値しない。委員長は評価結果を取りまとめ、平均得票が3以上で上位若干名の中から、審議を経て当該年の各賞の授賞適格者を選定する。
2. 委員定数の過半数の委員からの評価の投票がなかった場合は、締切り後2週間以内に再投票を行なう。なお、再投票が過半数に満たない場合は適格者なしの認定を行なう。

（運用上の補足）

1. 常設委員会設置規程の, 7. NPO 法人 日本火山学会各賞選考委員会規程第3項
委員は選考委員が授賞対象の直接的な関係者となった場合に、該当する賞の選考には関与しないものとする。
の「授賞対象の直接的な関係者」とは、「授賞対象本人, 論文にあつては対象論文の共著者, 学生にあつては指導教員かそれに類する立場の者」とする。
2. 日本火山学会表彰規程の第2項
日本火山学会優秀学術賞：直近数年間に於いて火山学に関する優れた学術貢献のあった本会会員に授与する。
の「直近数年間」とは、「直近5～6年程度」とする。

庶務提案議題

議題その 1； 理事会開催方法に関する定款および理事会運営細則修正案

(目的) web 会議システムなどを活用して理事会を柔軟に開催可能とするため、web 会議などの遠隔会議による理事会開催を定款に定義するとともに、メール会議同様にその招集を会議前日まで可能とするよう定款および理事会運営細則を修正する。

定款修正案

(理事会の開催)

第 3 2 条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の 2 分の 1 以上から理事会の目的である事項を記載した書面により招集の請求があったとき。
- (3) 監事が第 1 5 条第 4 項第 6 号の規定に基づいて招集するとき。
- (4) 日程的都合等により理事会を対面形式の会議で開催することが困難であると会長が判断した場合は、遠隔会議(電子メールによる会議を含む)にて審議を行うことができる。

(理事会の招集)

第 3 3 条 理事会は、前条第 3 号の場合を除いて、会長が招集する。

2 会長は、前条第 2 号の場合にはその日から 3 0 日以内に理事会を招集しなければならない。

3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面により、開催の日の少なくとも 5 日前までに通知しなければならない。

4 遠隔会議については、会議の期間、目的及び審議事項を期間の開始前日までに電子メールで通知することにより、招集に代える。

理事会運営細則修正案

第 5 条 定款第 35 条に定める出席数は、会議場への参加のほか、遠隔会議によりテレビ会議等により遠隔地から議論に参加する場合も議長の判断により出席とみなすことができる。電子メールによる会議の場合は、会議招集メールに記された期日内に招集メールへの返信により参加を表明した理事をもって出席者とする。

以上、定款および理事会運営細則の修正は理事会承認後、総会承認を要する案件。秋の臨時総会に提案する。

庶務提案議題その 2

会員の利便性向上および名簿作成・配布コスト削減のため、本会会員名簿作成方針を以下のように変更する。

1. 本会会員名簿の印刷物の作成を廃止し、PDF ファイルを学会ホームページ上にパスワード保護の上掲載する方針に変更する。
2. 名簿作成方針の変更にあたり、会員に改めて掲載情報についての掲載の可否を事前に確認する。氏名および会員種別は掲載必須とし、所属機関、連絡先（メールアドレス、住所）はそれぞれ掲載の可否を会員が選択可とする。回答が得られない場合は非掲載とする。
3. 名簿は 2021 年度末に掲載予定。
4. 名簿は、少なくとも毎年更新する。
5. 新入会員に対しては、名簿項目の掲載可否について、入会カードにて確認する。

庶務提案議題その 3

会員の個人情報の扱いについて、以下の方針を提案する。

- 1) プライバシーポリシーを以下のように策定し、会員および外部に対して公開する。
- 2) 個人情報の管理体制を以下のように定める。

個人情報の取扱・管理は庶務委員会の所掌とし、個人情報の取扱責任者は、庶務委員長とする。個人情報の取扱実務担当者は、事務局員とする。

以上は、理事会での判断後、総会での連絡事項。